

2024 年度 学校推薦型選抜試験 法学部 法律学科 「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
22	22

※ タイプⅠ、タイプⅡ、スポーツ推薦の総計

2. 法律学科 アドミッション・ポリシー

法律学科では、法的思考能力（リーガル・マインド）を備え、現実の社会におけるさまざまな問題に対して、論理的かつ合理的に考え、柔軟かつ適切な解決策を導き出すことのできる人材の育成を目指しています。

そのため、高い志と正義感、忍耐力を備え、以下のような適性を持った意欲ある志願者を求めています。

- ① 社会の動きについて、幅広い関心と知識を持っている人
- ② 物事を柔軟かつ論理的に考え、自分の意見を的確に表現できる人
- ③ 多様な意見に耳を傾け、適切な解決策を導き出す努力ができる人

3. 出題の意図

今回の小論文の出題は、志願者が本学科のアドミッション・ポリシーの①から③すべてにあてはまる人物かどうかを判断することに、そのねらいがあります。

この出題内容では、まず、志願者が現在のわが国の社会的課題について、広く関心をもっているかが問われます。その際には「キーワード」および「資料」を理解して活用することが求められます。また、国際社会との関係への言及が論述内容の厚みを増すポイントとなるため、その知識があるかどうか問われることになります。

その上で、出題のテーマに関する多様な意見を整理・検討することができるか、そして、それらの意見を論理的に説明することを通じて、その問題を柔軟かつ論理的に考え、自身の見解を自らの言葉で的確に表現し、展開する能力があるかが問われます。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

問題文にも明記されていますが、「資料」の条文を、特に目的もなく長々と引用することは、文字数の浪費と判断される場合がありますので注意が必要です。

2024年度 学校推薦型選抜試験 法学部 地域行政学科 「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
28	28

※ タイプⅠ、タイプⅡ、スポーツ推薦の総計

2. 地域行政学科 アドミッション・ポリシー

地域行政学科は、法律・政治・行政分野の学びを通して、より深い見識と広い視野を身につけ、将来的に地域社会のリーダーとしてその発展に貢献できるような人材になりたいという強い意欲を持つ志願者を求めます。そして、このような志願者を受け入れるために、特に次の点を重視します。

1. 地域社会の出来事や国内外の情勢に強い関心を持ち、地方自治体および民間企業のなかで地域社会の発展のために貢献していこうとする強い意欲や希望、自らの将来計画、更には行動力を有していること。
2. 地域社会の抱える課題を発見し、これまで学んできた知識をもとにその解決策を論理的に考えることができること。
3. 課題解決に取り組む際に、まずは自分自身の考えを持ち、そして他者との意見交換を通して議論を発展させ、一定の成果を挙げることができること。
4. 様々な価値観を持つ他者に対して自ら働きかけ、他者と協働して目標を達成した経験を有していること。
5. 国語や社会の科目について、現代社会の課題を発見し解決する能力を向上させるうえで前提となる知識や読解力・文章力といった、高等学校で身につけるべき基礎的学力を有していること。

3. 出題の意図

今年度の小論文試験は、上記の地域行政学科アドミッション・ポリシーのうち、特に1. および2. に関して、みなさんがその力を備えているかはかるために出題しました。「人口減少」は、沖縄県においても今後検討していかなければならない大きな課題の1つです。こうした社会の出来事に普段から関心を持っているか、自らの考えを整理して説明することができるか、を問うのがその狙いです。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

問題文では、①沖縄を人口減少に適応した社会としていくために、どのような対策・取り組みを行うべきか、②提案した対策・取り組みが、人口減少から生じるどのような課題の解決に繋がるのか、が問われていますので、この2点について具体例を挙げながら丁寧に論じることが必要となります。

その要求に応えるためにも、日ごろから新聞やニュースに目を通し、幅広い知識を身につけるように心がけてください。

2024 年度 学校推薦型選抜試験 経済学部 経済学科 「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
58	38

※ タイプⅠ、タイプⅡ、スポーツ推薦の総計

2. 経済学科 アドミッション・ポリシー

経済学科は、地域の自立および国際社会の発展に寄与するという教育研究目標のもと、社会人として諸問題を解決していくために求められる基本的な資質である「知識」、「考察力」、「表現力」を有する人物の育成を目指し、以下のような人物を求めます。

1. 経済を含む地域および国際社会の諸問題に強い関心がある人物
2. それら諸問題の解決策を導き出すための幅広い知識獲得に意欲がある人物
3. それら諸問題について論理的かつ主体的に考察をし、行動する意欲がある人物
4. 経済学や関連する諸分野の専門知識を応用し、社会において活躍することを望む人物
5. 経済学や関連する社会科学分野を学ぶために必要である高等学校卒業程度の基礎学力を有する人物

3. 出題の意図

本小論文は、受験者が経済学科において学ぶ上で必要と考えられる以下の資質や力をどの程度有しているのかについて確かめることを狙いとしている。

時系列データを読み取り、そのデータが示す意味を考察することができるか（アドミッション・ポリシー、以下 AP の1、5に関連）。そのような現状把握を土台とした上で、普段から身のまわりの経済現象に関心を払い、地域の経済的課題を認識しているか（AP の1、2、3、5に関連）。その課題についての解決策を自分なりに考え、提示することができるか（AP の1、2、3、4に関連）。また、これらを他人に伝わる明瞭な文章で論理的に表現することができるか（AP の1、4、5に関連）。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

グラフは昭和 47 年から（すなわち沖縄県が「復帰」して以降）令和元年までの沖縄県の1人当たり県民所得、日本の1人当たり国民所得、その格差の推移を表している。

「一人当たり県民所得」「一人当たり国民所得」の意味を理解できていること、これらグラフのデータの時系列変化を適切に読み取れていることが必要である。また、グラフ内の「所得格

差」は一人当たり国民所得を 100 としたさいに沖縄県の1人あたり県民所得はその何%にあたるのかを示している。したがって、この数値が 100 に近づくことは全国平均と沖縄県との差が縮小していることを意味していることを理解することが必要である。復帰した段階ではこの値は 57.8%にすぎなかったが、その直後 74.5%まで急上昇した。そののち一人あたり国民所得の伸びに沖縄県一人あたり県民所得の伸びが追いつけず平成 7 年にかけて差は少しずつ拡大した（沖縄県の一人あたり県民所得は全国平均の 62.2%まで低下した）が、その後少しずつ差が縮まり、現在沖縄県の一人あたり県民所得は全国平均の 75.9%となっている。

これを理解した上で、上述の格差が継続している背景および今後の沖縄経済の課題について、高校での学習内容および普段の生活で知った知識をもとに自分なりに考察し、その課題内容にあった改善提案を論理的に説明できているかということが評価のポイントとなる。

日ごろから、授業における学習のみにとどまらず、新聞・ニュース等に関心を払い、また読書・周囲との会話等を通して、地域社会の課題に気づく姿勢を養ってほしい。また、地域の課題を自らの積極的なかわりによって解決したいという意欲、そのための知識を獲得したいという積極性を養ってほしいと願っている。

2024 年度 学校推薦型選抜試験 経済学部 地域環境政策学科 「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
26	25

※ タイプⅠ、タイプⅡ、スポーツ推薦の総計

2. 地域環境政策学科 アドミッション・ポリシー

地域環境政策学科では、経済の視点から地域と環境を考えることを通して、環境に配慮しながら地域経済の発展に貢献し、持続可能な社会を創造できる人材の育成を目指しています。そこで、本学科では、次の 1～4 について自らの言葉で説明できる志願者を求めています。

1. 沖縄及び世界の経済や環境の問題、政策に広く関心がある人
2. 沖縄の過去・現在・未来に関心があり、地域社会へ貢献したいという熱意のある人
3. 社会で起きている様々な事柄に関心を持ち、フィールド(現場)に出て、積極的に活動することが好きな人
4. 大学の授業に耐えうる基礎学力を有し、勉学に対する意欲がある人

3. 出題の意図

この小論文の出題の意図は、志願者が経済学部地域環境政策学科で学ぶ上で必要な能力をどの程度持っているかを見ることである。

まず、教科書に記載される地球温暖化について、気温上昇の動向や温室効果ガスの排出要因などに関する知識量、①で日本政府が推進する 2050 年カーボンニュートラルの実現のための政策、日常生活面でのライフサイクルの転換事例を示しながら、脱炭素を推進する方法を論理的に説明できるかをみる。

また、②では、自動車業界での電気自動車などの次世代自動車の開発やサプライヤーを含めた温室効果ガス排出量の削減策、物流業界での次世代トラック導入やエコドライブ・アイドリングストップなどの取り組み、航空業界での脱炭素に対応したジェット燃料の導入などの取り組みなどを示しながら、脱炭素の推進する方法を論理的に説明できるかをみる。

最後に、小論文全体において、質問の意味を把握し的確に答える能力があるか、自らの主張を論理的に展開する能力があるか、そして、熱意があるかをみる。これらは、本学科のアドミッション・ポリシーの内容に志願者が合致しているかを判断するものである。

4. その他特記事項(評価のポイント・アドバイスなど)

今回の問題では、温暖化や脱炭素の対策についての問いであり、①国の対応や生活面での転換の必要性、②産業界の脱炭素対応をバランス良く記述することが重要である。①や②はそれぞれが具体的な課題解決方法などを理解し、事例を示しながら説明している場合は高く評価され、一般論や感想的な記述は低く評価している。

なお、決められた原稿用紙の使い方から逸脱しているもの、全体の文字数の不足、誤字が多い場合については、減点となった。

脱炭素の世界各地や生活・産業面などでの対応は、世界や沖縄の経済や環境に大きくかかわるとともに、新聞やテレビニュースなどからの情報を、意識的に関心を持つことが重要と思われる。志願者自身がフィールド(現場)にあった解決方法が導き出すためには、世界や地域に強い関心を持つことが重要である。

2024 年度 学校推薦型選抜試験 産業情報学部 企業システム学科 「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
38	37

※ タイプⅠ、タイプⅡ、スポーツ推薦の総計

2. 企業システム学科 アドミッション・ポリシー

企業システム学科では、情報化、国際化の進展の中、多様なビジネス活動に対応できる人材の育成を目指し、「マーケティング」「経営」「会計」の3分野を柱に専門的、体系的に学んでいきます。よって、本学科では以下のような志願者を求めます。

1. ビジネスの専門的・体系的な学びを通じて自分自身のスキルや能力を鍛えるために必要となる、基礎的学力と教養を身につけている人物。
2. 企業システム学科で学びたい事を自覚し、それを具体的に表現できる人物。
3. ビジネスの課題を発見しそれを解決へ導くために、思考力と判断力を発揮して、自分の意見を的確に説明できる人物。
4. ビジネスへの深い探究心と広い好奇心、そして大学卒業後のビジョンを抱き、地域・国際社会に貢献する意欲を有する人物。
5. 自分自身が主体的に取り組んできたことや、周りの人たちと協力して取り組んできたことが、大学で学びたいことと結びついている人物。

さらに、多様な資質を有する学生を総合型選抜によって受け入れ、その資質を開花させるために必要な教育を通して将来のビジネス社会で活躍できる人材育成を行います。総合型選抜では、上記の5項目に加えて、他者に誇れる活動や実績等を背景とした、卓越した知識や考え方、意見を持っている人物を求めます。

3. 出題の意図

企業システム学科では学生に、日ごろより、自身の地域がかかえる身近な課題や社会問題(ビジネス・企業問題を含む)に関心を持ち、主体的に考えてほしいと思っている。今年度の学校推薦型選抜では、受験生にとって身近な地域問題・社会問題をひとつ提示し、それについて考察してもらう。問題に対して、それを理解し、ふかく考え、自身の見解をまとめ、それを表現する力をみていきたい。理解し、考え、まとめ、表現する過程にあっては、高等学校2年生課程までに修得した知識(たとえば「現代社会」・「政治・経済」・「ビジネス経済」などの科目で修得した知識)を、うまく活用できているかどうかをみていきたい。

4. その他特記事項(評価のポイント・アドバイスなど)

特になし。

2024年度 学校推薦型選抜試験 産業情報学部 産業情報学科 「出題の意図」
(タイプⅠ・タイプⅡ)

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
36	35

※ タイプⅠ、タイプⅡの総計

2. 産業情報学科 アドミッション・ポリシー

産業情報学科は、産業経済および情報科学・技術の基礎および専門領域における実学的な知識を習得し、高度情報化社会を牽引する国際的なスペシャリストの育成を目指します。

また、「情報」「経済」「語学」の3分野を専門的、体系的に学び、さらに地域ないしグローバルビジネス分野で活躍できる人材を育てていきます。具体的には次の能力・人材を養成・輩出していきます。

1. ビジネス・産業・経済の課題を分析し、地域や国際社会に対して解決に向けた提言ができる能力・人材
2. 総合的な情報技術を習得し、高度なプログラミングおよびシステム設計を学んだ上で、デジタルコンテンツのデザインやマネジメントを推進できる能力・人材
3. 異文化を理解し、グローバルなビジネス現場で必要な対話力・実務力・課題解決力を有する人材
4. 「情報」「経済」「語学」の知識を応用し、自らの社会的責任を自覚し地域で積極的に貢献できる能力・人材

上記の人材・能力を養成・輩出するために下記のような志願者を求めています。

1. 「情報」「経済」「語学」など実学に幅広く興味・関心があり、それらを深く学びたいと思う態度や、それらを学ぶ上で基礎的な知識・学力を身につけている人物
2. 産業情報の知識を科学的・論理的に学び国際社会や地域の課題を解決する能力や日本語・外国語についての基礎的な知識やコミュニケーション能力を身につけている、あるいはそれらをさらに学ぶ意欲のある人、研鑽しようと努力する人物
3. 大学生活で自ら進んで深く学ぼうと努め、学生・教員の間で互いの価値観を認めつつ協働して勉学に励みコミュニケーション能力を身につけた人物

さらに、総合型選抜では、上記の3項目に加えて、以下の項目を掲げ学力だけでは測れない多様な資質を有する志願者を求めています。

1. 情報技術、またはスポーツ文化活動、語学、ボランティア活動などにおいて他者に誇れる実績などを有している人物
2. 産業情報学科で学びたいことを明確にアピールできる人物
3. 大学卒業後の具体的なビジョンを描き、自己研鑽できる人物

3. 出題の意図

産業情報学科では、「情報」「経済」「語学」に興味・関心があり、自ら進んで深く学ぼうと努める学生を求めています。

設問では、客数だけに頼らない新たな観光のビジネスモデルの考察を通じ、沖縄の観光業の収益改善に向けた方策と情報技術の新たな活用について、関心の高さを問う内容となっています。

設問への解答を通じ、グローバルなビジネス現場で必要な対話力・実務力・課題解決力を育てる意欲があるか、観察したいと考えています。

4. その他特記事項(評価のポイント・アドバイスなど)

特になし。

2024 年度 学校推薦型選抜試験 産業情報学部 産業情報学科 「出題の意図」
(スポーツ推薦)

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
0	0

2. 産業情報学科 アドミッション・ポリシー

産業情報学科は、産業経済および情報科学・技術の基礎および専門領域における実学的な知識を習得し、高度情報化社会を牽引する国際的なスペシャリストの育成を目指します。また、「情報」「経済」「語学」の3分野を専門的、体系的に学び、さらに地域ないしグローバルビジネス分野で活躍できる人材を育てていきます。具体的には次の能力・人材を養成・輩出していきます。

1. ビジネス・産業・経済の課題を分析し、地域や国際社会に対して解決に向けた提言ができる能力・人材
2. 総合的な情報技術を習得し、高度なプログラミングおよびシステム設計を学んだ上で、デジタルコンテンツのデザインやマネジメントを推進できる能力・人材
3. 異文化を理解し、グローバルなビジネス現場で必要な対話力・実務力・課題解決力を有する人材
4. 「情報」「経済」「語学」の知識を応用し、自らの社会的責任を自覚し地域で積極的に貢献できる能力・人材

上記の人材・能力を養成・輩出するために下記のような志願者を求めています。

1. 「情報」「経済」「語学」など実学に幅広く興味・関心があり、それらを深く学びたいと思う態度や、それらを学ぶ上で基礎的な知識・学力を身につけている人物
2. 産業情報の知識を科学的・論理的に学び国際社会や地域の課題を解決する能力や日本語・外国語についての基礎的な知識やコミュニケーション能力を身につけている、あるいはそれらをさらに学ぶ意欲のある人、研鑽しようと努力する人物
3. 大学生活で自ら進んで深く学ぼうと努め、学生・教員の間で互いの価値観を認めつつ協働して勉学に励みコミュニケーション能力を身につけた人物

さらに、総合型選抜では、上記の3項目に加えて、以下の項目を掲げ学力だけでは測れない多様な資質を有する志願者を求めています。

1. 情報技術、またはスポーツ文化活動、語学、ボランティア活動などにおいて他者に誇れる実績などを有している人物
2. 産業情報学科で学びたいことを明確にアピールできる人物
3. 大学卒業後の具体的なビジョンを描き、自己研鑽できる人物

3. 出題の意図

産業情報学科では、情報、経済、語学に関心があり、論理的な思考で専門知識を学ぶこと、国際および地域問題の解決への貢献、そして自主的に学習を続ける能力を持つ人物を求めています。

今回の試験ではスポーツ分野でも活用が進んでいるデータサイエンスを取り上げ、受験生にとって身近なスポーツにおける活用について検討してもらいました。これにより、受験者がスポーツ分野、情報分野、ビジネス分野に対して持つ興味と知識、また、どのようなデータが収集・活用されるのかを具体的なスポーツを上げて論じてもらうことで分析能力と論理的な思考力を評価しました。また、スポーツデータを活用して新しいビジネスを創出する可能性について検討してもらうことで、既存の枠組みを超えた創造力と革新的な考え方について評価しました。

4. その他特記事項(評価のポイント・アドバイスなど)

文章の書き方、特に語句の正確な用法や指定された文字数でのまとめ方も評価対象となっています。

出題の意図を踏まえつつ、自身の関心分野を明確に示し、論理的に考えを展開することが重要です。主張や議論は、明確な根拠や具体例を用いて示すことで、あなたの批判的思考能力と論理的思考能力について示すことができます。さらに、過去の経験や学習がどのように現在の知識や能力と関連しているかを説明することで、あなたの考え方をより説得力のあるものにするすることができます。

2024 年度 学校推薦型選抜試験 総合文化学部 日本文化学科 「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
19	19

※ タイプⅠ、タイプⅡ、スポーツ推薦の総計

2. 日本文化学科 アドミッション・ポリシー

日本文化学科は、日本文化及び琉球文化への造詣を深めることを教育上の目的としています。具体的には、言語・文学を中心とする理論的、かつ実践的な教育を通して、国際社会、情報社会、地域社会の中で自己の役割を深く認識し、生き生きと実践できる人材、そして、豊かな知性、分析力、情報処理能力、表現力、コミュニケーション能力、共生能力を備えた人材を育てていきます。

日本文化学科は、以上の学科の教育目標と沖縄国際大学のアドミッション・ポリシーに照らし、次のような志願者を求めます。

1. 言語・文学を中心とする日本文化及び琉球文化、またグローバル時代に求められる多様なコミュニケーションについて主体的に学ぼうとする意欲・関心をもつ人
2. 1の学びを深めるための基礎学力をもつ人
3. 地域社会、国際社会、多文化社会、高度情報社会の中で生じるさまざまな課題を解決するために必要となる、基礎的な思考力・判断力・表現力(読解力を含む)を身につけている人

総合型選抜では、上記の 3 項目に加えて、以下のような能力・意欲と基本的な学習習慣をもった志願者を求めます。

1. 批評・創作を含む広い意味での表現活動、知的好奇心を深める豊かな読書活動、琉球文化の継承発展に関する活動、国際交流活動などの領域で優れた実績を上げ、大学生活の中で、さらに深めようとする人。
2. 国語科教員、日本語教員、図書館司書(学校司書を含む)、司書教諭などの当学科の専門領域に関わる職業に深い関心を持ち、それを通じて社会貢献を目指す人。
3. ボランティア活動、課外活動(スポーツ、文化活動ほか) などを通して、広い視野(多様性)やコミュニケーション能力を備え、大学での学びに生かそうとする人。

3. 出題の意図

日本文化学科では、言語学・文学を中心とした、日本文化及び琉球文化、またグローバル時代に求められる多様なコミュニケーションという3つの専門領域に関わる試験問題を毎年出題しています。今年度は、「身体論」に関する論考から出題しました。【問一】は要約問題、【問二】は意見文問題となっています。いずれも、アドミッション・ポリシーの3にある、「基礎的な思考力・判断力・表現力(読解力を含む)」を身につけているかどうかを評価するための問題となっています。

4. その他特記事項(評価のポイント・アドバイスなど)

【問一】の要約問題については、①「要約」がどのようなものを理解しているか、②課題文の要点を全て含んでいるか(図1~4を含む)、③②を整理する際の論理の流れが適切であるかどうか、④既定の文字数に達しているか、という4点を評価しています。

【問二】の意見文問題については、①作者の主張を理解しているか、②「本文の内容に関わらせて、「学校と身体」というテーマで小論文を作成」しているか、③適切な語彙を用いて表現しているか、④既定の文字数に達しているか、という4点で評価しています。

2024 年度 学校推薦型選抜試験 総合文化学部 英米言語文化学科 「出題の意図」
(タイプⅠ・タイプⅡ)

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
23	22

※ タイプⅠ、タイプⅡの総計

2. 英米言語文化学科 アドミッション・ポリシー

英米言語文化学科は、沖縄国際大学のアドミッション・ポリシーおよび学科の教育目標に照らし、以下のような志願者を求めます。

1. 英語圏の言語・文化に強い関心を抱く人
2. 高い英語力の習得に主体的・自律的に取り組む意欲のある人
3. 英語を通じて日本と世界をつなぐグローバルな志を持つ人
4. 共に学ぶことの意味と意義を考え、よりよい学びのために他者と協働できる人
5. 多言語・多文化理解に必要な基礎的学力を持つ人（総合型選抜：英検 2 級、CEFR B1 程度の英語力を持つ人）
6. 他者とのコミュニケーションを通して、望ましい人間関係の構築を図れる人
7. 多文化共生社会において諸問題の解決に求められる基礎的な思考力・判断力・表現力などを有する人

3. 出題の意図

英米言語文化学科では、英語の長文を読解しその内容を日本語で要約するという問題を毎年出題しています。出題されるテーマは英語圏の言語文化に関するものから異文化コミュニケーションに関するものまで、幅広く取り上げられています。この問題を通して、英文を正確に読み取るための「英語力」、要点を論理的にまとめていくための「思考力」、読み取った内容を的確に伝えるための「表現力」を評価しています。

今回取り上げたエッセイはアメリカの人気作家チャールズ・シュルツによる漫画「ピーナッツ」の個性豊かなキャラクターたちについて述べたものです。この英文の要約を通して、英語が正確に読み取れているか、英文全体の構成を掴みながら要点が押さえられているか、決められた文字数を守ったうえでの的確な日本語で表現できているか、といった点を評価しています。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

特になし。

2024 年度 学校推薦型選抜試験 総合文化学部 英米言語文化学科 「出題の意図」
(スポーツ推薦)

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
1	1

2. 英米言語文化学科 アドミッション・ポリシー

英米言語文化学科は、沖縄国際大学のアドミッション・ポリシーおよび学科の教育目標に照らし、以下のような志願者を求めます。

1. 英語圏の言語・文化に強い関心を抱く人
2. 高い英語力の習得に主体的・自律的に取り組む意欲のある人
3. 英語を通じて日本と世界をつなぐグローバルな志を持つ人
4. 共に学ぶことの意味と意義を考え、よりよい学びのために他者と協働できる人
5. 多言語・多文化理解に必要な基礎的学力を持つ人（総合型選抜：英検 2 級、CEFR B1 程度の英語力を持つ人）
6. 他者とのコミュニケーションを通して、望ましい人間関係の構築を図れる人
7. 多文化共生社会において諸問題の解決に求められる基礎的な思考力・判断力・表現力などを有する人

3. 出題の意図

英米言語文化学科は、世界の人々と対話・交流するために必要な「真に国際的に通用する実践的な英語力」と、益々グローバル化する社会に対応できる「情報処理技術」を身につけた人材の育成を目指している。したがって、この学科の入学希望者には他者とのコミュニケーションを大切にし、理想的な人間関係の構築と英語力の向上に積極的に努力する人物を求めている。

出題した英文は、卓球の歴史について述べたものである。解答者には、英語の語彙力だけでなく、文章全体の構成や段落のつながりを理解し、それぞれの段落の要点を整理し、日本語で簡潔にまとめる力が求められる。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

特になし。

2024年度 学校推薦型選抜試験 総合文化学部 社会文化学科 「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
10	10

※ タイプⅠ、タイプⅡ、スポーツ推薦の総計

2. 社会文化学科 アドミッション・ポリシー

社会文化学科は、沖縄国際大学の「アドミッション・ポリシー」を以下の通りに具体化し、「沖縄」と「人間」について学ぶ意欲と関心を持ち、自らの個性と人間力の向上に努める人材を求めます。

1. 沖縄を理解するための知的好奇心と知的探求心をもつ人物
2. 沖縄をとりまく世界の社会や文化の動きに深い興味と関心をもつ人物
3. 沖縄をとりまく世界の問題と向き合うための基礎学力を有する人物
4. 自らの問題意識のもと、フィールド（現場）に出て積極的に情報を集め考え判断し、主体的に行動することができる人物
5. 国際交流・地域・ボランティア・文化・スポーツなど学内外の活動に主体性と協調性をもって取り組める人物

3. 出題の意図

今回の小論文課題の意図は、社会文化学科のアドミッション・ポリシーのうち、特に1～3で挙げた諸要素の有無を判断することを目的としています。本学科は、沖縄の歴史・文化・社会を総合的に学ぶという特色をもっていますが、同時にその学びを沖縄内だけにとどめるのではなく、広く世界の動向や諸問題とのかかわりの中で沖縄を考える重要性についても打ち出しています。こうした背景のもと、今回の小論文課題は、沖縄の歴史・文化・社会にどれほどの関心を持っているか、それをより広い世界とのつながりの中で考えることができるか、また、それを考えるための基礎的な学力を備えているかを確認するため、出題しています。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

特になし。

2024 年度 学校推薦型選抜試験 総合文化学部 人間福祉学科社会福祉専攻
「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
11	11

※ タイプⅠ、タイプⅡ、スポーツ推薦の総計

2. 人間福祉学科社会福祉専攻 アドミッション・ポリシー

社会福祉専攻では、以下のような志願者を求めています。

- I. 将来、社会の各分野で社会福祉の専門家として働くことを強く希望し、その素質が十分であると認められる人物。
- II. 社会福祉の分野に活かせる具体的な能力や技能を有し、大学での勉学や将来において活用が期待できる人物。
- III. 将来、アジアや太平洋地域をはじめとする国際的な場における支援活動に参加することを熱望する人物。

また、上記のいずれかに該当する学生を募集する上で、各種入学試験では次のような点を具体的な評価の指標とします。

1. 社会福祉の専門的な役割等について、的確に説明することができる人物か
2. 大学で学びたいことと自分自身の将来像とのつながりについて、的確に説明できる人物か
3. 国内外の社会問題、生活問題等について強く関心をもつ人物か
4. 社会参加および社会貢献に対して、意欲や積極的な姿勢をもつ人物か
5. 社会福祉を科学的に学ぶ（他者の声を聞き取り、要点を整理し、記述する）ための基礎的学力を有する人物か

3. 出題の意図

今回の小論文試験問題は、社会福祉専攻のアドミッション・ポリシーの試験評価「3. 国内外の社会問題、生活問題等について強く関心をもつ人物か」、「4. 社会参加および社会貢献に対して、意欲や積極的な姿勢をもつ人物か」、「5. 社会福祉を科学的に学ぶ（他者の声を聞き取り、要点を整理し、記述する）ための基礎的学力を有する人物か」を確認することを意図した出題となっています。とくに、受験生が今日の沖縄の社会問題や

社会の様相についてどの程度関心を持ち、社会福祉の視点を意識しながら自らの意見を整理して論述することができるかを評価します。

以上の具体的な設題を通して、同ポリシーⅠ「将来、社会の各分野で社会福祉の専門家として働くことを強く希望し、その素質が十分あると認められる人物」、Ⅱ「社会福祉の分野に活かせる具体的な能力や技能を有し、大学での勉学や将来において活用が期待できる人物」を確認することを意図しています。

4. その他特記事項(評価のポイント・アドバイスなど)

(1) 評価のポイント

今回の出題にあたっては以下の3点が評価のポイントとなっています。

- ① 日頃から社会問題、とくに沖縄の社会問題に関心を持っているか。
- ② 「保育園新設計画に反対する住民」はなぜ生じるのか、その社会的背景、とくに沖縄の社会の様相やその変化を分析できるか。
- ③ ②を踏まえて、「社会福祉」を意識しながら自分の考えを整理して論述する能力があるか。

(2) アドバイス

あらゆる小論文問題にいえることですが、日頃から、身近な出来事やニュースに対して関心を持ち、それに関連する文献や新聞記事等を読んだり、自分の経験を意識的に振り返ったりしながら考えるという作業を習慣にしましょう。同時に、振り返ったこと、考えたことを自分の言葉で身近な人に説明したり、意見を交換したり、文章化するなどの作業を積極的に行うとよいでしょう。

これらの作業を習慣化しておくこと、日頃から自分自身の意見を身につけ、それを言語化することにつながり、様々な設題にある程度対応できるかと思えます。

2024 年度 学校推薦型選抜試験 総合文化学部 人間福祉学科心理カウンセリング専攻
「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
32	29

※ タイプⅠ、タイプⅡ、スポーツ推薦の総計

2. 人間福祉学科心理カウンセリング専攻 アドミッション・ポリシー

人間福祉学科心理カウンセリング専攻は、沖縄国際大学の「アドミッション・ポリシー」を以下の通り具現化し、人間のこころに関心を持ち、自らの個性と人間力の向上に努める人物を求めます。

- 1.人間の「こころと行動」と「人と人とのつながり」について科学的視点から学ぶ意欲と関心を持つ人物。
- 2.これまでに意欲的に取り組んできた活動や得意分野を大学での学びに結びつけ、さらに、心理学の知識や技術を今後のキャリア形成や日常生活に実践的に応用したいという真摯な態度を持つ人物。

3. 出題の意図

今回の小論文試験問題の意図は、心理カウンセリング専攻のアドミッション・ポリシーの中でも特に1.にあるように、心理学という学問が人間の「こころと行動」や「人と人とのつながり」について科学的視点から学ぶものであるということについてどの程度理解を深められているかを評価することです。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

<評価のポイント>

- ・対面でのコミュニケーションとインターネット上でのコミュニケーションの違いに着目し、心理学的な視点から論じられているか。
- ・インターネット上のコミュニケーションで攻撃的な言動が生じやすい理由を分かりやすく論じているか。
- ・自分の考えを論理的な文章で書き表せているか。

<アドバイス>

- ・人の心や行動に関心を持ち、客観的に観察して、言語化できるようになりましょう。
- ・根拠に基づいて自分の意見を書く練習を繰り返し行ってください。